

議会運営委員会記録

- 1 日 時 令和4年2月28日（月曜日）
- 開 会 午前11時44分
- 閉 会 午後 0時19分
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席委員 10人
- 委員長 舎川 智也
- 副委員長 松尾 茂
- 委 員 久保 大憲
- 〃 泉 英之
- 〃 岡部 享
- 〃 高田 真里
- 〃 成田 光雄
- 〃 横野 昭
- 〃 鋪田 博紀
- 〃 柞山 数男
- 4 欠席委員 0人

5 委員外議員として出席した者

議 員	金 岡 貴 裕
//	藤 田 克 樹
//	上 野 蛭
//	大 島 満
//	谷 口 寿 一
//	尾 上 一 彦
//	赤 星 ゆかり

6 職務のために出席した者

【議会事務局】

事務局長	浦野 弘司
庶務課長	大野 満
議事調査課長	野嶽 誠司
議事調査課長代理	中山 崇
議事調査課議事係長	酒井 優
議事調査課調査係長	金井 沙織
議事調査課主査	中村 千里

7 会議の概要

委員長 ただいまから議会運営委員会を開会いたします。

 まず、委員会記録の署名委員に泉委員、岡部委員を指名いたします。

 本日の協議事項は、一般質問の順序についてであります。

 一般質問を予定されている議員からは、先週、24日に一般質問予定書が提出され、また、翌25日には一般質問要旨（予定）の一覧を全議員に棚入れにより配付させていただいたところであります。

 このたび自由民主党さんから一般質問の順序について提案を行いたいとの申出がありましたので、本日協議を行うものであります。

 参考までに現状の一般質問の順序をお手元に配付しております。

 それでは、自由民主党さんから説明をお願いします。

泉委員 今回の質問順序に関しまして、我々自由民主党としましては、基本的に、他会派に関係なく自由民主党の党员である2つの会派の中で協議されるべき案件だと思っておりました。

 人数的には2対1に分かれますので、公明党

や立憲民主市民の会、その他2人、1人会派の皆さんには迷惑がかからないように、基本的に2対1の割合—今までの自民党の順番の中で2対1の割合でやるべきだと提案しました。

そのような考え方を富山市議会自由民主党にも話をしたところですが、議会運営委員会が開催されるこの日まで協議を引っ張られたという感じは否めません。

我々は自民党だけの話の中で、人数が16対8ですので、富山市議会自由民主党2人に対して、その次に自由民主党が1人入るといような方向で考えております。

その自民党の中の話が今日まで延びたことについて大変心外に思っております。先週の金曜日にでも話ができたのではないかと。会期が始まってからこのように順番を決めるということ甚だ遺憾に思っております。そのことも含めて委員長のお考えはどうだったのか—要は先週の水曜日はたまたま休日その後、木曜、金曜日とありましたが、この問題は、既に火曜日に我々から申入れしてあるはずで

す。
今後もこのような運営を進めていかれるつもりなのか、委員長のお考えをお聞かせください。

松尾委員

今の提案といいますか、御意見になるのかもしれませんが、要は自民党内で議論すればいいことだということで一私も議会運営委員会の副委員長として自由民主党から意見があるということで、あえて委員会という形で開催していただいたのですけれども一自由民主党内で協議すればいいだけのことを委員会で協議する必要はないのかなと思ったのですけれども。

久保委員

話を整理させていただきますと、富山市議会においては、一般質問で早く質問したほうが有利ではないかという考え方が長年あったのだろうと思います。個人的には別にそんなに順番にこだわりはありません。

ただ慣例的に、会派構成員が多い会派から順番に質問を割り振っていくといった前提の中で議会運営をされてきたというふうに思います。

この考え方でいくと、会派構成員の数から見るとドント方式というやり方が最も公平な形になるのですが、そうした場合に自民党会派が過半数以上持っていた頃に、自民党がずっと6人くらい続いて質問をするという流れになっていたので、そこは少数会派の皆さんにも配慮して、自民党2人が質問をすると次は

ほかの会派に1人譲るという配慮を重ねてきたのだと認識しております。

今回、資料に「現状のとおり」と書いてありますが、8人いる私たちの会派がこれを見る限り一元の順番が優先されるという考え方から見るとやはり著しく公平性に欠けるのではないかということが私の会派の中で問題になりました。そういった中で、少数会派の皆さんの順番に影響を及ぼさないように自由民主党と富山市議会自由民主党の間で協議をして、従来のまま富山市議会自由民主党が2人質問をされたら自民党が1人質問をするという順番でもいいのではないかという提案をさせていただいたのですが、協議は不調だったという認識をしております。

私たちが心配していることは、委員長にも議長にもやはり公平で公正ないろいろな会派の立場を踏まえて、皆さんが納得できるような議会運営を進めていただきたいという思いが非常に強いのです。

今回の件に関しては先ほど泉委員から発言がありましたが、どうしてこの段階になるまで委員会の場で協議をなされなかったのかということについては大変残念ですが、時間がないので今回はこの方法で行くのだと言われれば、私たちとしては質問順番に関してはこれ

以上意見を言いませんが、今後の議会運営に対する姿勢については、委員長としてしっかり配慮していくつもりなのか、それともこのような進め方をしていくつもりなのかについてしっかり御発言をしてほしいと思います。

(発言する者あり)

鋪田委員

この委員会まで引っ張られたという意味合いがよく分かりませんが、一確かに会派が分かれたことによって自民党会派のほうで見たとおり質問順番の検討が必要になってきたということは今認識しましたが、もともとは今の形一ルールで行っていたので、このような形でなるほどと思っていたのですが、今日定例会が開会してこの場でルール変更ということはなかなか難しいと。もう一回議論をしてからのほうがいいのではないかと。会派構成もこれまでとは変わりましたので、今後協議をしていくことについては私たちも賛成いたしますが、定例会初日でのこの議論で一般質問の順序を直ちに変わっていくのは難しいのではないかと考えております。

岡部委員

今、自民党さんを中心にお話をされているのですけれども、この「現状のとおり」という

案を見た限りでは非常に不自然な感じがします。そういった意味では今自民党が2会派に分かれて16人、8人となり、公明党4人、立憲民主市民の会が3人、あと2人会派などという形になっております。私はドント方式を取り入れたらどうなるのかということを検討すべきですし、それを含めて今日まで協議をされなかったことは問題かと思えます。したがって3月定例会が開会しましたけれども、今日はまだ午後もありますし、その中で少し協議をいただいて、なるべく早くこの問題を解決して進めていただきたいと思っておりますので、ぜひその方向で意見交換をされたらどうかと思えます。

柞山委員

今皆さんがいろいろと言われましたが、確認も含めて委員長に意見を求めます。この一般質問の質問順番につきましては、さきに鋪田委員も言われましたが、今回党派構成が変わったので、そのことに関して影響する議題であります。

先般の委員会では質問残時間の確認をただだけで、この一般質問の順番については何ら触れられなかったと思えます。当然、党派構成が変わった段階で、このような一般質問の順序については再考すべき、検討すべき材料で

あったと思います。

振り返ってみると、自民党2人が質問をしてから他会派を1人入れていくという今の形は、平成29年5月に自民党から提案しています。改選後の6月から執行したのだと思いますが、今回は、昨年改選が終わってしまいましたけれども、会派構成が変わったのは今年1月ですから、この段階で質問時間の変更はもちろんのこと、この議題についてはやはり皆さんに提案すべきだったと思います。委員長として事務局とそのような一般質問の質問順番について、全く今日まで検討されなかったのかどうか、少し状況を教えていただきたいと思っています。

松尾委員

公明党としては、質問順番に関してはどういった形になろうが構わないといったスタンスです。今、柝山委員から御指摘がありまして、私も副委員長としてこのような順番のことに気づいていなかったことについては、もう少し早めに手を打てればよかったのかなと感じましたが、今の段階となってはもう一回しっかりと議論が必要なのかなと思っており、6月定例会に向けて、質問順番についてもう一回丁寧に議論をしていく必要があるのかなと今感じているというのが正直なところであり

ます。

公明党としては順番に関しては問題はないというところで、現状どおりでいいのではないかと思います。

泉委員

もう1点だけ確認ですが、今までは24人の自民党会派でした。つまり議会において多数決で過半数を占めている会派の申出に対しては、このような手順であるべきだったろうと認識しておりますが、今回富山市議会自由民主党は16人で過半数に達しておりません。ですから先ほども申したように、今後このような運営をされるのであれば、我々は考え方が違い、それで分裂したのですからきちんと委員会の場を一要はこのような活発な議論をする場とするのか、それとも今までどおりある程度、会派内で下段取りをした上で協議に持っていくのか。その辺のところを、次回の委員会で在り方について委員長からしっかりと御発言いただきたいと思います。今回はいきなりこういった質問ですからあれなのですが、今後の運営の仕方をどうされるのかということが私は非常に心配に思っておりますので、それだけ申しておきたいと思います。

委員長

私のほうから少し説明したいと思います。今

回、私としましては自民党の会派が割れたことによって、質問順番のルールを変えるということは考えませんでした。なぜかという、そもそも会派が割れたからといって一回もまなければいけないというルールは現状でなかったからです。ですので、現状のままで進めていこうと考えました。

会派間では議論を促していたのですが、なかなか話も進まなかったという中で委員会を開いてはどうかという御意見もいただきましたので、今回委員会を開かせていただきました。ただ、質問順番については今のままで行わなければいけないというルールもありませんので、また皆さんから御提案があれば当然来年度に向けて協議をしていくということは十分考えられることでもありますし、先ほど久保委員からも発言があったように、質問順番において各会派に公平に、みんなが納得されるような形にするということは委員長としても十分考えられることだと思います。

現状は、現行のままのルールでいって、来年度に向けてみんなで一緒に協議をしていくということは十分にあり得ると考えておりますので、その辺は御理解願います。

私の姿勢としてはこのようなところですが、心情的には我が会派が割れたということで、ほ

かの会派の皆さんに御迷惑をかけるのはどうなのかというところもあります。ただ、現状のルールの中では会派が割れたからといって何かしなければいけないということはないと。先ほども申し上げたとおり会派同士でいろいろ話はしましたが、ここに至るまでうまくいかなかったということで、このような場を持たせていただいたということでもあります。現状の説明としては以上となります。

久保委員

先ほど松尾副委員長の発言でも、今の割り振りは特に問題ないという話でしたし、委員長の発言で今後公平・公正にしていくということはよく分かります。しかし現行案が公平だと思っておられるのであれば、私たちとしては議論が全然かみ合わないわけで、これまでのルールを前提として、不公平だけれどもこれで進めてほしいということなのか、これが公平だと思っておられるのかで私たちの捉え方が全然変わってくるのです。それについてはお二人から御発言をいただきたいと思えます。

委員長

公平とか公正ではなく、今回は現行のままいこうということなのです。公平か不公平かというものではありません。今のままでいこう

ということで進めていっただけで、それで御意見があれば来年度以降もんでいこうということは十分1つの話になると思うので、これが公平・公正だということではなくて、現行のままで進めていこうということです。

久保委員

それでは質問を変えますが、先ほど岡部委員から違和感があると。この割り振りを見ていると一公平・公正ではないと言うと委員長としては発言しづらいところがあると思いますが、会派構成の人数を踏まえると、この発言順は見ていて違和感が感じられるのか感じられないのか、違和感が感じられるから今後修正していこうという話なのか。これがそのままいい案だと認識されているのか。

なぜかという、このような話を始めていくときに、もともと当時このルールをつくったときに柝山委員が発言をされてそれがルール化されています。そのときに「最大会派」という言い方もなく、自由民主党が2人質問をして、次に別の会派が1人質問をするという取決めでいいのではないかとということで話が進んでいたのです。

とするならば、当時からそのまま会派を存続しているのは私たちの自由民主党会派ですので、そういったことまで入ってくると、話が

全然収集つかなくなるわけです。こういったことをやりたいわけではなくて、まずは委員長から今回時間もないしこのような案でいきたいということであれば、私たちは譲歩して、それについて賛同しますが、この案自体が正しい—こういった形が望ましいと思っているのであれば議論を深めないといけないと思っています。

これが適正ではない—ちょっと言葉の言いやすい、言いにくいはあると思いますが、改善をしなければいけないという共通認識でおられるということによろしいのかどうか教えてください。

委員長

共通認識だと思います。いびつかどうかという話ではなくて、御意見があって改めてみんなでもんでいこうというのであれば、そういったルールも今のところはないので、また新たな構成になったことによって皆さんが理解できるような質問順番にしていくことはやぶさかではないと考えております。

松尾委員

公平・公正という観点というか、現状のルールだということでのこのままでという思いです。本当に公平なやり方というのは、結局は各会派の市民に付託された勢力に合わせてドント

方式で質問順番を決めるというのがある意味で公平なのかなと思っておりました。ただ現状のルールがこうだからそれを变える必要はないのかなと感じておりました。

泉委員

お二人とも勘違いされておりますが、現行がと言われるとまた会派が割れたところに戻ってしまいますが、そういった話をしないでおこうというつもりで一要件は我々は旧の自民党のいろいろなものを継いでいます。つまり現行のままと言われるのであれば我々が一番最初にきて、2人と1人でいいではないですか。そういう言い方になるのですよ。認識が全然違うと思います。

鋪田委員

少し感情的になっておられますが、柝山委員が当時の自民党幹事長としてそのような発言をされていた中で、当時私は副議長としてその議論の渦中にもいました。それはあくまで最大会派としての自民党として2人質問されてからという話であったのだろうと認識をしております。今最大会派が2つに分かれたということで、柝山委員からまさに問題提起をされたのですから、それについて今後私たちは、今後質問順番についてほかの会派も交えてどのやり方がいいのかという一議会によっ

てルールが違いますから一何が公平・公正か、どこにポイントを置くのかによって変わってきますので、そこは少し時間をかけて議論すればいいのではないかということを私たちは提案しているのです。

ただ今日定例会が開会していますので、今回はこれまでどおりの形で進めるとして、新年度についてはみんなとまた議論をしてはどうかという提案を再度させていただきたいと思います。

岡部委員

少なくとも議会運営委員会の委員長なり議長に対して問題提起がされたという経緯があるということでありましたので、そのことについてこの場でいきなり議論されるのは不自然な感じがします。

全部で9会派ありますから、各会派の代表との話し合いや意見交換を経て議会運営委員会にかけるという時間がなかったわけではないような気がします。そういった議会運営をしっかりとやっていかないと、私はこれは自民党だけの問題ではないと思っていますので、ぜひその辺も含めて事務局とどういったすり合わせをしていくのかも含めてしっかりと検討いただければと思います。いつからやるのかということは、準備もあると思いますので。

やはり話し合うということは大事だと思います。

柞山委員

委員長は先ほど現行のままでいけばいいと思ったということで自ら発言しておられますが、今ほど岡部委員も言われましたが、状況が一会派構成が変わったのですからその段階で各会派もそうですし、皆さんにこのような状態でいいかと提案してみんなの意見を調整すべきだったと思います。

委員長は先ほど言われたように「私は現行のままでいこうと思った」と。でも委員長だけがそう思っただけでほかの会派には周知してないのです。

このあと審議していけばいいのですが、そのあたり委員長は解釈を間違えておられると思います。私は現行のままでやっていけばいいと思ったからそうだったのだということになると、議会運営委員会とは何なのか、この委員会自体が否定されることをさっきから言っておられると思いますが、どうですか。

委員長

いろいろ御指摘もいただいたところであって、様々な御意見もいただきました。自民党同士の下のほうでは調整させていただいていたとは思いますが。

ただ今後に向けてこのような御意見もいただきましたので、次回に向けて進めていくことは、先ほどから何回も繰り返しますが、やぶさかではないと思っております。

今後6月定例会に向けて、様々な会派の方からも御意見をいただきながら、次の形はどういったものかについて議論を進めていきたいと思っております。

柞山委員

もう一回確認ですが、会派が分かれたので、質問時間の確認ということがあったのですよね。その段階でこの話が出てこないといけなかったのではないかと思ったのですが、今日初めて、この現行でいくという確認でしたよね。今定例会に向かってこの確認をされましたか。

横野委員

今のこの質問の件については、会派が分かれた段階で質問時間は当然按分の必要性はあったと思いますから、質問時間の分配についてという形の会議はオーケーだと思います。結果的には今までの流れからいくと、こういった形で進むということは、分かれた会派も承知するはずなのです。理解されているという認識を持っているので、議会の流れがこういった流れだということを確認した上で進め

ているのだと私は思います。

ただ、今自民党から順番の話が出てきたことについては、それは考え方の違いですから、逆に言えば今後の話は今後やればよいと思う。会派が割れた段階で当然こういった話が出てくるだろうと思っていたものが、今出てくることに私は違和感があります。

私たちは別にそのことでとやかく言うつもりはありません。ただ分かれた自民会派からこれについて今出てくること自体が、本当はもっと早く言うべきであって、委員長に質問予定書を提出した段階でこの流れの順番が出たわけですから、今回はこのままいくというのが私の主張です。

松尾委員

皆さんの意見もお聞きして、とにかくもう一回しっかりと議論していこうという思いだということは理解できました。とにかく6月定例会に向けてもう一回丁寧な一各会派へ持ち帰ってもう一回練り直すという議論でいくということに関しては、皆さん了解いただけののではないかと思うのですけれども、いかがですか。

成田委員

私もそれに賛成です。自民党同士の話をこのような場でしてほしくないですし、このタイ

ミングですので現行どおりで、6月議会に向けて議会運営委員会で検討すればいいのかと思います。

久保委員

成田委員は大変誤解をされておりますが、別にこれは自民党内の話をしているわけではなくて、議会運営の話をさせていただいております。議会運営をするに当たって、当然議長、副議長、議会運営委員会の委員長、副委員長には多くの会派—交渉会派以外にも少数会派も多くあるので、そういった声を丁寧に拾い上げて議会運営に努めてほしいという願いをしているのです。

幸いにも私たちは質問の順番に有利不利があるとは思っていないので、この案に関しては許容しますという話はしておりますが、従前、質問順番が早いほうがいいのではないかという中で議会運営をされてきた背景がありますから、それを考えると、本来であれば、こういったものは少し問題があるのではないかという提起をしているのです。

ただ、富山自民は最大会派であるので、そういった少数会派の声もつぶさに聞いていただきたい、委員長、副委員長に関しては公平・公正にいろいろな意見を聞いて議会運営に当たっていただきたいということを再三お願い

しているのです。それについて明確にお答えいただければ、私たちは今後の議会運営をしっかりと注視していきたいと思えます。

委員長

今回このような形で御意見をいただいたので、私としては十分受け止めます。

今後の議会運営については、公平・公正に進めていくことは全く問題ないというか一やっ
ていくことは皆さんと方向は同じだと思えます。ただ私の受け止めとしては、こういった形でやっ
ていくべきと思ったところに皆さんとのずれが生じていたところで、そこは反省している次第です。

今回は時間もございませんので、まずは現行で走っていただいて、その後に改めて議会運営委員会として皆さんと話をしながら質問順番について決めていきたいと思っておりますが、それで皆さん納得いただけないでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

泉委員

久保委員がおっしゃった言葉で私たちは最初から納得はしておりますので、今回の件についてはいいのですが、ただもう一点、代表質問の時間についてなのですからけれども、これも

こういった経緯で富山自民が60分で、8人いる私たち自民が25分、公明党さん4人で25分という、こういった決め方も次回から時間割りについて一きちんとした規定があるのでしたら結構なのですが、ないようでしたら、またこういった話も議論の中に加えていただきたいと思います。

委員長

それにつきましてはルールもあります。最後に確認しますが、今回はこのような形で進めさせていただいて、6月に向けてまた新たに質問の順番について皆さんと考えさせていただくということで、御理解いただけないでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

それではそのように決定いたします。以上で、本日の協議事項は全て終了いたしました。次回の議会運営委員会は、明日、3月1日（火曜日）午前10時から開催いたしますので、よろしく願いいたします。これをもって、本日の議会運営委員会を閉会いたします。

令和4年3月定例会
(令和4年2月28日)
議会運営委員会記録署名

委員長 舎川智也

署名委員 泉 英之

署名委員 岡部 享